

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第31号

2017. 7. 22



なつまつりにわかがみ
『夏祭浪花鑑』

Twitter

文楽応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

文楽応援団

検索

QRコードはこちら



HP



Twitter

文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②資料展示室における文楽関係展示品の解説
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- その他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います



げんべいぬのびきのたき
『源平布引滝』

『襲名に因んで 六代豊竹呂太夫さんに 伺いました』



撮影：森口ミツル

平成二十九年四月文楽公演は桜満開の国立文楽劇場で「六代豊竹呂太夫さんへ」と染抜かれた真新しい幟を何本もはためかせ、初日を迎えました。新・呂太夫さんは開演寸前までロビーで沢山のお客さんに囲まれ満面の笑みでご挨拶されていました。二十二日間の長いようで短い時間は大入りと言うお目出度い終止符をもって千穂楽を迎えた直後、お時間を頂きお話を伺いました。

呂太夫さんは、十代豊竹若太夫のお孫さんですが、若い頃はどうしても太夫になりたい、とは思わなかったようです。色んなキツカケ、人との出会い、運命に導かれ大きな節目が複数重なり合って流れに沿われたそうです。

最後の内弟子経験者だそうですが、お人柄でしょうか少しも辛い目に合われたようには思えませんでし

た。舞台以外でお目にかかることがありますと、にこやかにサツと手を上げて、いつもありがとう、と言ってくれます。

襲名披露狂言『菅原伝授手習鑑』の「寺子屋の段」で、出演者全員（太夫・三味線・人形遣い）の肩衣、袴がお揃いで舞台に映えキレイでしたとお伝えすると、「あれはね、生地屋さん足運んで自分で選んで、糊付けは京都の〇〇商店にお願いしました。仕上がりを見るまで心配やつたんです。僕、あの花紫色が好きです。ねん。」宣材ポスターの衣裳は、紺色で金屏風に映えていましたと申し上げますと「あれは絹です。光つてましたか、嬉しいなあ。」と喜んでおられました。

いつも装いが素敵です。全てご自身で選ばれるそうです。ご臍負さんからのプレゼントも見事にアレンジ、さすがです。帽子もショールもセンス良くお洒落です。ご本人は「そんなに意識してへんねんけどね。」とご謙遜でした。

最後に今後の抱負を伺いました。「素浄瑠璃の会で大ホールを満員御礼にしたいですなあ、演題は合邦もええし、陣屋・新口村・酒屋なんかやりたいなあ。」その時は応援団連中駆けつきますとお約束しました。

お忙しいところありがとうございます。（文責 荒木・安藤）

「やっぱり文楽はやめられない！」

其の二十六

『小さな おもて・な・し』

関 口 奈緒美

今年も暑い季節が国立文楽劇場にやってきました。夏といえば親子劇場！子ども達で賑わいます。

四年前、私と息子は初めて文楽に触れました。開演前、胸を躍らせドキドキしていた親子に、劇場一階の展示室で文楽応援団という団員章をつけた方が優しく丁寧に接してくださり、息子に折紙を手渡してくれました。緊張していた息子の顔がほころんだのを思い出します。

その折紙は夏休み文楽特別公演開演中に、展示室に來られた子ども達や外国の方々に配られたものでした。一時は継続の危機もあったようですが、応援団結成時の初代団長（当時は団長と呼んでいなかったそうです）がまだ応援団の活動の形も決まらない頃、「今日は来てくれておおきに、また来てや！」と子ども達に声をかけながら折紙を渡していたのが始まりだそうです。一人でも多く文楽を観に来てほしい、という初代団長の熱い思いを引き継ぎ、団員達で折り続けようとなりました。今では文楽応援団活動の一つに位置付けられています。

現在、私も団員となり、折紙を手渡す立場となりました。

今年度からは年間七回ある研修会で折紙教室を始めました。折るのが苦手だった団員が夢中になり、難しい折紙を分解したり、色々工夫しているようです。

団員達は一年を通して、電車の中や家事の合間に折り溜め、種類の折紙を袋に入れシールを貼り、二千余セット用意しています。

今夏も子ども達や外国の方にお手渡しします。嬉しそうな顔で母さんやおばあさんに見せるお子さん、「去年ももらった！」と団員達に話しかけてくれるお子さん、袋を開けて取り出して感激される外国の方、いろんな笑顔に出会うと一年間の苦労が報われます。

本月初日！試行錯誤の折紙。喜んでいただけたら幸いです。団員達は来年に向けて既に折り始めています。文楽とは直接関係はありませんが、文楽好きの人のつながりを広げていきたいと思っています。

「やっぱり文楽はやめられない！」



展示室での様子

最近の活動風景

ゆかりの地 まち歩き



文楽座跡巡り (2017.2.11)



忠臣蔵ゆかりの地巡り (2017.5.20)

解説風景



展示室内での解説



出前解説「泉南シニアいきいき講座」(2017.5.27)

『菅原伝授手習鑑』ゆかりの地



生身天満宮

菅原天満宮

「にっぽん文楽 in 伊勢神宮」



文楽応援団 東西と一ざい



- * 平成 28 年 11 月 11 日、鶴澤清介さんが第 51 回大阪市市民表彰の文化功労部門として顕彰されました。
- * 平成 28 年度「大阪文化祭賞優秀賞」に平成 28 年 4 月公演通し狂言『妹背山婦女庭訓』が決定されました。
- * 豊竹咲甫太夫さんが平成 30 年 1 月大阪国立文楽劇場、2 月東京国立劇場小劇場での文楽公演で六代竹本織太夫を襲名されるとの発表がありました。
- * 吉田幸助さんが平成 30 年 4 月大阪国立文楽劇場、5 月東京国立劇場小劇場での文楽公演で五代吉田玉助を襲名されるとの発表がありました。
- * 関西国際空港第 1 ターミナルビル 2 階中央 KIX ギャラリーで、「文楽展 2017」が開催されました。
期間：平成 29 年 2 月 28 日（火）～ 3 月 22 日（水）
- * 「にっぽん文楽 in 伊勢神宮」が開催されました。
期間：平成 29 年 3 月 11 日（土）～ 3 月 14 日（火）
- * 大阪市立中央図書館で「ポスターから見る文楽」展が開催されました。
期間：平成 29 年 6 月 16 日（金）～ 7 月 19 日（水）
- * Loop A(阪神高速ミナミ交流プラザ) で「夏休み文楽特別公演 PR」展が開催されました。
期間：平成 29 年 6 月 22 日（木）～ 7 月 11 日（火）
- * 平成 29 年 7 月 2 日（日）京都国立博物館で「文楽鑑賞入門」が開催されました。
- * 応援団 HP 来場者数が 90,337 人、文楽応援団ツイッターのフォロワー数が 2,048 人になりました。(2017.7.8 現在)
- * 次回公演
東京：9 月 2 日（土）～ 9 月 18 日（月・祝）
大阪：11 月 3 日（金・祝）～ 11 月 26 日（日）
※11 月 15 日（水）は休演

THE BEAUTY OF VIOLENCE

“Osaka Summer Festival” (*Natsu Matsuri Naniwa Kagami*) is one of the three great murder masterpieces of bunraku, all originating in Osaka in the 18th century and all based on real events. “Summer Festival” is the most frequently staged and most popular of the three. It is arguably also the most beautiful.

There is an “aesthetic of violence” on the Japanese stage which displays fights, murders and suicides in visually stunning ways. This dates back to early puppet shows about the superhero Kimpira, which predated bunraku as we know it. Kimpira and his hot-tempered friends righted wrongs in explosive encounters in which the heads and limbs of the primitive puppets frequently went flying. As the art of the puppets became more sophisticated, violence was expressed in more creative, and provocative, ways. The swaggering street hero in “Summer Festival” commits his slow and stately murder in the mud, accompanied by festival music, his naked torso glistening with multicolored tattoos.

Osaka’s leading puppeteer at this time was the legendary Yoshida Bunzaburō I, prolific designer of costumes, tricks and mechanics for the dolls. He is said to have used real mud in the premiere of this play, a tradition still followed in kabuki. Bunzaburō’s reign encompassed the

most inventive two decades in puppetry. From 1727 to 1747, the dolls evolved ever more elaborately, acquiring moving facial features and articulated fingers, until their complexity was such that each required a team of three operators. These are the characters that enthrall us today.

Bunraku is a theatre of extreme emotions, like all classical drama, and violent scenarios suit the dolls particularly well. Lacking human subtlety, they must reach out to us more forcefully. At the same time, we can maintain a certain distance from the frenzy. Bunraku murders can be enjoyed for their arresting choreography, gorgeous visuals and chilling suspense without our having to worry that anyone is getting hurt. Their puppeteers will mend them, dust them off and leave them resting on their hangers for the next day’s show.

Faith Bach
Earphone Guide



なつまつりなにわかがみ
『夏祭浪花鑑』

- 1/ 3 新春公演初日。鏡開き。展示室解説、演目解説など、26日まで。
応援団通信第30号、3,000部発行。
- 1/19 「高齢者大学同窓会南部」より解説依頼。11人。担当:荒木・折井・齋藤・目黒。
- 1/24 共同通信文化部より取材。担当:安藤。
- 2/ 3 【勉強会】「第1回伝統芸能概論」講師:後藤静夫先生。出席:23人。
【スタッフ会議】出席:10人。
- 2/11 【町歩き】「文楽座跡巡り」担当:高橋。参加:15人。
- 2/15 毎日新聞社会部より取材。担当:荒木・安藤。
- 2/17 【第1回研修会】前日準備。世話人:安藤。
【勉強会】「第2回伝統芸能概論」講師:後藤静夫先生。出席:20人。
- 2/18 【第1回研修会】新春公演総括。新団員紹介。出席38人。
今期スタッフ:油田(名)・荒木・今井・榊田・関口・高橋・前川・村上(明)・目黒・油田(信)・横田・安藤。
今期HP委員:榊田・油田(名)・荒木・齋藤・立川・安藤。
応援団通信編集委員:荒木・長・折井・西野・安藤。
学習会・勉強会委員:榊田・横田・油田(信)・安藤。
公演演目解説委員:藤田。
活動写真H'初作成委員:荒木・齋藤。
折紙取りまとめ担当委員:柴多・関口。
町歩き担当委員:高橋。
出前解説担当委員:前川。
イベント担当委員:油田(名)。
今期H'スタッフ-担当委員:荒木・関口。
報告書発送担当委員:松井・安藤。
- 2/26 【第1回研修会】報告書発送事務作業。世話人:松井・安藤。
- 3/ 3 【勉強会】「第3回伝統芸能概論」講師:後藤静夫先生。出席:21人。
- 3/ 4 【スタッフ会議】出席:11人。
- 3/10 【第2回研修会】前日準備。世話人:荒木・安藤。
- 3/11 【第2回研修会】出席:46人。解説日程調整など。
4月公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
【勉強会・学習会担当委員会】出席:4人。
【応援団通信第31号】第1回編集会議。出席:5人。
- 3/14 産経新聞朝刊に掲載される。
- 3/17 【勉強会・学習会担当委員会】後藤静夫先生と勉強会打合せ。出席:4人。
【勉強会】「第4回伝統芸能概論」講師:後藤静夫先生。出席:21人。
- 3/19 HP用取材。喜光寺・植輪公園・菅原神社など。世話人:荒木・榊田・齋藤・安藤。
- 3/28 【第2回研修会】報告書発送事務作業。世話人:松井・安藤。
「4月公演演目」講師:国立文楽劇場企画制作課。出席:15人。
- 4/ 3 【応援団活動写真H'初作成】担当:荒木・齋藤。
- 4/ 7 4月公演初日の前日準備。世話人:荒木・安藤。
- 4/ 8 4月公演初日。
応援団登録証伝達式。農端支配人より授与される。出席:46人。
展示室解説、演目説明など30日まで。
- 4/12 NHK大阪放送局報道部「関西ワイド」J'第1放送より生中継。担当:安藤。
- 4/15 木村様より解説依頼。12人。担当:荒木・馬越・横山。
- 4/20 日本経済新聞より取材。担当:安藤。
- 4/25 毎日新聞社会部より取材。担当:岡持・安藤。
- 5/ 2 豊竹呂太夫師に取材。担当:荒木・安藤。
- 5/13 【スタッフ会議】出席:11人。
- 5/19 【第3回研修会】前日準備。世話人:安藤。
【第3回研修会】出席:46人。4月公演総括。
【勉強会】「『十干・十二支』の理解と利用」講師:中西明。
【町歩き】「忠臣蔵ゆかりの墓参り」正法寺・福泉寺・葉王寺・長久寺・正覚寺・安楽寺・吉祥寺。担当:高橋。参加:22人。
毎日新聞社会部より取材。担当:岡持。
- 5/25 高津小学校2年生に解説。生徒:21人。引率:3人。担当:荒木・谷野。
- 5/27 「泉南」いきいき講座より出前解説依頼。西信達公民館:14人、
新家公民館:16人。担当:荒木・馬越・前川・松井・横山。
- 6/ 1 【第3回研修会】報告書発送事務作業。世話人:松井・安藤。
【勉強会】「文楽公演の初日が開くまで①」講師:後藤静夫先生。出席:26人。
- 6/13 【応援団通信第31号】第2回編集会議。出席:4人。
「広島県美術館友の会」より解説依頼。40人。担当:荒木・長・関口・安藤。
- 6/15 【学習会】「文楽公演の初日が開くまで②」講師:後藤静夫先生。出席:24人。
- 6/19 【応援団通信第31号】第3回編集会議。出席:3人。
- 6/24 【スタッフ会議】出席:10人。
- 6/25 【応援団通信第31号】第4回編集会議。出席:3人。
- 7/ 7 【第4回研修会】前日準備。世話人:荒木・安藤。
- 7/ 8 【第4回研修会】出席:42人。夏休み公演日程調整など。
夏休み公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
- 7/13 【応援団活動写真H'初作成】担当:荒木・齋藤。
「夏休み特別公演演目」講師:国立文楽劇場企画制作課。
- 7/20 【第4回研修会】報告書発送事務作業。世話人:松井・安藤。
【勉強会】「技芸員さんたちの系譜について」講師:後藤静夫先生。
- 7/21 夏休み特別公演初日の前日準備。世話人:荒木・安藤。
- 7/22 夏休み特別公演初日。展示室解説、演目解説など、8月8日まで。
応援団通信第31号3,000部発行予定。

文楽公演

平成29年10月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『桂川連理柵』^{かつらがわれんりのしがらみ} 「六角堂の段」 「帯屋の段」 「道行籠の桂川」

【夜の部】「解説」『曾根崎心中』^{そねざきしんちゆう} 「生玉社前の段」 「天満屋の段」 「天神森の段」

地方公演チケットお問い合わせ先

9月23日(土・祝)	ラプリーホール (大阪府河内長野市)	0721-56-6100	10月 6日 (金)	名古屋芸術創造センター (愛知県名古屋市)	052-249-9387
26日 (火)	電力ホール (宮城県仙台市)	022-714-1022	7日 (土)	グランシップ (静岡県静岡市)	054-289-9000
29日 (金)	石川県立音楽堂 (石川県金沢市)	076-232-8632	8日 (日)	神奈川県立青少年センター (神奈川県横浜市)	045-263-4475
30日 (土)	黒部市国際文化センターコラーレ (富山県黒部市)	0765-57-1201	11日 (水)	札幌市教育文化会館 (北海道札幌市)	011-271-3355
10月 1日 (日)	岡崎市せきれいホール (愛知県岡崎市)	0564-25-0511	13日 (金)	函館市民会館 (北海道函館市)	0138-32-1773
3日 (火)	JMS アステールプラザ (広島県広島市)	082-244-8000	15日 (日)	本巢市民文化ホール (岐阜県本巢市)	058-323-5373

文楽応援団通信 第31号 2017年7月22日

編集・発行 文楽応援団 (年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL 06-6212-5542(直通) FAX 06-6212-1202